

## 1 背景

これからの教育では、予測できない状況に柔軟に対応できる力を伸ばし、世界で生き抜く人材を育成することが必要

「新たな教育のスタイル」の確立に向けた「次世代の学びの基盤プロジェクト」 ⇒ 「自立した学習者」の育成

### 3つの改革

① DXによる学びの改革	② 教員と組織の改革	③ 制度の改革
デジタルとリアルの最適な組み合わせ ➢ AIなどのデジタル活用の強化でさらに深い学びを充実 ➢ 生徒が学びをデザインできるようデジタルで時間や場所等を柔軟化し、学びの領域を拡大 ➢ グローバル・リーダーを招聘した授業の展開	教員の役割や組織のあり方の改善 ➢ AIを活用した授業をデザインして、生徒自身が学び深める意欲を引き出す指導へ ➢ コーチング・ファシリテーションの意図的・計画的な活用など、教員の役割の変化 ➢ 外部の専門的な知見を活用して、個々の教員の所属する組織の整備	学習内容や方法、単位の認定等の柔軟な運用 ➢ 学ばなければならない科目とその学習内容や指導のルール等を柔軟化 ➢ 出席の扱いや単位認定など、評価方法の柔軟化 ➢ 免許要件など、生徒への学びの提供の柔軟化

学びの領域や方法の拡大に伴い、**教員に求められる力**も変化

教科・科目（教育課程）を、AIやグローバル・リーダーの活用など、**新しい視点でデザインする力**

外部の力の活用    DXの活用

生徒一人一人に伴走しながら、**授業を計画し効果的に実施する力**

ティーチング・コーチング・ファシリテーション

多様な評価    学習履歴の利活用

### 「教員のスキルアップ・プロジェクト」

大学や研究機関からの指導者等の導入    海外のグローバルで最先端の知見の活用

- 研究**
- AIを活用した新たな授業のデザイン
  - これからの教員に新しく求められる資質・能力の研究
  - 新たな研修の開発
  - AIやデジタル教科書、LMS等を活用した取組との相乗効果を研究

研究



実践

- 実践**
- コーチング・ファシリテーション研修
    - ・管理職を含めたすべての教員が習得し組織的に人材育成
    - ・年次・職層・専門性向上等、各研修で体系的に実施
  - デジタルとリアルを融合した新しい授業の研修実施
  - グローバル・リーダーと連携した授業の実践

研究と研修を一体的に進める態勢（教育イノベーション推進室）を導入

## 2 「教育イノベーション推進室」の取組（アクション10）

- 「新たな教育のスタイル」を担う教員を育成するため、「教育イノベーション推進室」が核となり**アクション10**を推進

（暫定版）

### 【「新たな教育のスタイル」を担う教師像】

（暫定版）



役割	アクション10 取組内容	
I 研究的教育実践者	1 「新たな教育のスタイル」を確立するために必要な教員の資質・能力の定義付け	
	2 生成AIの利活用、デジタルを活用した教育の充実	○ AI・英語コンテンツの活用 ○ 新分野のデジタル教材
	3 デジタルを活用した個別最適化	○ デジタル教科書
II 教育のデザイナー・ディレクター・プロデューサー	4 デジタルを組み合わせたリアルの教育の充実	○ 生徒主体の探究活動 ○ 民間事業者の多彩な講座
	5 デジタルとリアルの教育を支える新たな仕組みの活用	○ 納得性の高い評価 CBT ○ LMS ○ オンデマンド教材等の単位認定
	6 グローバル・リーダーの活用	○ グローバル・リーダーの活用
	7 学習者個々の状況や活動場面に応じた意図的な役割の選択	
III 学習者の学びの伴走者	8 ティーチング・ポートフォリオの検討	
IV 学び続けるラーナー	9 新たな研修の開発・デザイン	
	V 教員集団の形成者	10 「教育イノベーター」の認定

### 教員の理解を深めるために

- 「新たな教育のスタイル」の確立に向けた取組を円滑に推進できるよう、「**新たな教育のスタイルを担う教員の支援**」シリーズとして、アクション1～10を網羅する**ガイドブック**をアクション1から順に3年間かけて作成し、学校に周知

### 3 ガイドブック「ティーチング・コーチング・ファシリテーション（TCF）編」

#### （1）趣旨

教員が「生徒一人一人に伴走しながら、授業を計画しより効果的に実施する力」を高めるための具体的な手だての一つとして、**TCFの意図的な使い分け**を説明し、「自立した学習者」を育成する授業改善を推進

#### （2）特徴

- 教員がどのような意図で言葉を発しているのかという「発話」に着目して、**主体的な学びを実現するための視点**を提示
- **深い学びの実現**に向けて、教員が**TCFを意図的に使い分け**ることの**効果**や、その**方法**を提示
- 教員が**生成AI**を用いて授業中の**発話データ**を**即時的に可視化**し、**授業改善**に生かせる一つの方法を紹介

#### （3）内容

##### ア 背景と伴走者の視点

主体的な学びを支援する**伴走者**として大切な**視点**

総合的な探究の時間の例



地産地消の促進を通じて生産者と消費者の結び付きを強化する方策について考える

##### イ 東京都の取組と基本的な考え方

「次世代の学びの基盤プロジェクト」の趣旨や**TCFの定義**

##### ウ TCFの使い分けの実践

**TCF**を活用して**授業改善**する際の**ポイント**

##### エ 生成AIを活用した発話の分析

教員の発話のデータを**生成AI**で**可視化**し、**指導の調整・改善**につなげるための一例の紹介

##### ティーチング

教員 私たちの地域では農産物の生産量が最も多く、全体の65%を占めています。他に私たちの地域の特色を知る上で必要なデータは何だと思えますか。  
学習者 畜産物の割合もあると思います。

##### コーチング

教員 地域の生産物を中心として、生産者と消費者を結び付けるためには、どのようなことが考えられますか。  
学習者 御当地カレーフェスタを開いて楽しんでいただいではどうでしょうか。

##### ファシリテーション

教員 皆さんのアイデアは他の地域ではどのように活用できるでしょうか。  
学習者 A 私たちのグループでは、SDGsの視点から考えてみたらどうか。  
学習者 B それならば国内だけでなく、海外での活用例も考えやすいね。

※ 7月以降に都立高校等で活用し、バージョンアップした完成版を、9月中を目途に都内全公立学校に展開

### 4 今後の取組

- **大学等と連携し、新たな研修・研究の在り方を検討**するとともに、既存の研修・研究をアップデートし、**研究と実践の往還**を推進
- 「新たな教育のスタイルを担う教員の支援」シリーズとして、**アクション1～10に関するガイドブック**を順次作成
- デジタルとリアルを融合した学びを体験できる新たな研修室「**ラーニング・ラボ**」を整備し、**研究を実証**する場として活用